

IUFRO-J NEWS

No. 5

日本大会シンボルテーマの候補課題と背景

第17回日本大会にどのようなシンボルテーマをかか
けて大会を招集するかは、大会の性格や方向を左右する
重要かつたいせつな問題である。

1976年のオスロ大会では“限られた資源の世界におけ
る林業”，その前の米国フロリダ大会では“林業実践と
活動強化のための研究の役割”をシンボルテーマにした
ように、わが国においても IUFRO の主旨に沿った、し
かもこの大会が日本で開かれる意義と重要性を象徴し
て、内外の林業関係者に十分アピールできるようなシン
ボルテーマを選択することがだいじな要件である。

<選定の経過>

そこでこのシンボルテーマの選定については、IUFRO
-J をはじめとするわが国の林業関係団体等を通じて、
昨年6月のころから広く意見を求めるため2回にわたっ
て候補テーマを募集してきた。

この結果応募されたシンボルテーマは20余人の方か
ら30余りの課題が寄せられた。その内容を共通的なも
のに要約してみると、

- (1) 環境と資源としての森林の問題
- (2) 森林資源の有効利用の問題
- (3) 21世紀にのこす豊かな森林資源の問題
- (4) 森林とくらしをとりあげた問題
- (5) 産業としての林業の問題などを扱った事柄におけ
ることができる。

事務局では、以上のような内容をもったこれらのシン
ボルテーマについて討議し、いろいろの条件、たとえば
日本や世界の林業事情や背景を勘案し、未来の展望を配
慮するなかで次のようなシンボルテーマを候補として選
定し IUFRO 理事会委員に連絡した。

Forestry: Environment and Resources for 21st
Century

(豊かな環境と資源を21世紀にのこす林業)

(IUFRO 理事会へのテーマ)

いっぽう IUFRO 理事会においては既報のとおり
Plochman (ドイツ) 松井 (日本) Carreiro (ブラジル)
Silversides (カナダ) の4氏でシンボルテーマ検討委員
会を構成し、今秋の理事会で検討の結果を報告し、正式
に決定することが約束されている。

そこで先月末 Plochman 氏および Silversides 氏よ
り現在次のようなシンボルテーマが寄せられていると連
絡があったので紹介する。

- “Research of today for the forests of tomorrow
- “Productive forests of tomorrow need forest-
research today
- “Research for a green future
- “Forest-research-service to mankind
- “Forest for mankind-research for forests
- “Forest Research for the Future
- “A New World of Forestry through Research
- “Forest Research-Out with the Old in with the
New
- “Forest Research-the Hope of the Third World
- “The New World of Forestry
- “Energy-A Challenge to World Forestry

以上のような状況であるが、日本側でもホスト国とし
ての日本の林業事情や、国際連携などを十分反映した日
本大会にふさわしいシンボルテーマの選定を望まなけれ
ばならないと考えている。

なお、今秋(10月7日～13日)ミュンヘンの理事会に
は、佐藤副会長、松井理事の出席が予定されている。

(事務局 雨倉)

エクスカージョン (EXC.) コースについて

昨年来検討してきたエクスカージョンの視察候補地、コースについて林業試験場の事務局を主体に協議を進めてきたところ、現在次のようなコース(案)を設定することが出来た。

このコース、視察箇所等についてもさらに専門委員を設けて、日程、道順、専門主題、観光名所との関連などについてさらに調査協議を進める予定であるが、現在の状況をお知らせして、おおかたのご意見をいただきたいと考えている。

IUFRO-EXC. コース

1. (DIV. 1) (造林土壌) 天然スギ・ヒバ林コース (4泊5日)

(航空機)	(秋田泊)	(大 郡)	(十和田泊)
京 都	製紙・木材加工業、秋田製紙団地	仁耐スギ天然林	十和田 観 光
(所用時間) 3:00-	<3:00>	2:00-	<2:00> 4:00-
	(般湯, 浅虫泊)	(むつ市, 浅虫泊)	
広葉樹林・アオモリトドマツ林・ブナ林、褐色森林土	ヒバ林、ポドソル土壌、恐山	三 沢	東 京
<3:00>	3:00×2-	<2:00>	1:00- 2:00-

2. (DIV. 1) (土壌) 林地肥培コース (3泊4日)

(航空機)	(別府, 由布院泊)	(阿蘇泊)	(熊本泊) (航空機)
京 都	別府観光、林地肥培試験林	日田・小国スギ人工林	阿蘇草地
1:00-	<3:00> 0.40- 2:00-	3:00-	<3:00> 1:00-
			<3:00> 2:00-

3. (DIV. 1) (防災) 治山治水コース (4泊5日)

(田上山, 神戸泊)	(六甲山)	(名古屋泊)
京 都	秀山山腹溪間工事	都市周辺治山工事
5:00-	<2:00> 1:00-	<2:00> 3:00-
		<1:00> <1:00>
(由比, 東京泊)	(男体山, 日光泊)	
地すべり防止工事	亜高山地帯の治山工事(日光東照宮)	東 京
<1:30> 3:00-	5:00-	<3:00> 5:00-

4. (DIV. 1) (林業一般) 亜寒帯林業コース (4泊5日)

(航空機)	(札幌, 定山渓泊)	(栗山, 富良野泊)	(阿寒泊)
京 都	地方林試・針広混交林・路網、林試	林木育種、王子育種場	原生林・風倒跡更新、
4:00-1:00-	<2:00>	1:00-	<2:00> 5:00-
			<3:00>
	(覆葉砂泊)		(航空機)
褐色森林土、東大演習林	パイロットフォレスト	原野造林	林産試験場(道立)
2:00-	<2:00>	2:00-	<2:00> 2:30-

5. (DIV. 1) スギサシキ林業と育種コース (5泊6日)

(秋葉原) (別府泊) (小国, 阿蘇, 熊本泊)

京 都 ———— 鳥獣(サル)別府観光 ———— 小国スギサシキ林, 放牧, 林試, 林木育種場 ————

2:00- <3:00> 3:00- <1:00> 2:00- <2:00> 4:00-

(えびの高原泊) (都城市泊) (宮崎泊) (航空機)

マツ枯損, シラス土壌・火山灰 ———— 鉄肥スギサシキ林 ———— 照葉樹林, 木工場, 日南海岸 ———— 東 京

<2:00> 1:00- 2:00- <3:00> 2:00-

6. (DIV. 2) (森林保護) 森林樹病コース (4泊5日)

(浜名湖, 箱山寺泊) (浜松, 天竜, 稚根泊)

京 都 ———— 苗畑病害・マツクイムシ・シイタケ栽培, 館山寺温泉 ———— 日楽, スギ人工林, 製材所, ————

5:00- <3:00> 3:00- <4:00>

(富士山, 河口湖泊) (信大, 軽井沢泊)

スギ並木 ———— 落葉病・心腐病, スパルライン ———— カラマツ落葉病の抵抗育種, 信州大学, 林木

3:00- <4:00> 3:00- <2:00>

育種場 ———— 浅間山 ———— 東 京

5:00-

7. (DIV. 2) (森林保護) 森林害虫コース (3泊4日 *or 4泊5日)

(津山) (智頭, 鳥取泊)

京 都 ———— マツ枯損・苗畑病害抵抗育種, 育種場, 苗畑 ———— スギ・ヒノキ人工林, 穿孔虫 ————

2:00- <2:00> 5:00- <2:00> 2:00-

(鳥取, 松江泊) (三次, 広島泊)

砂丘造林・シイタケ研究・菌ジ研究所, 大山 ———— ホブラ病虫害 ———— マツタケ栽培, 出雲大社, 広島

<4:00> 5:00- <3:00>

* (広島, 姫路泊)

林試, 大一商店 ———— 特殊林産物・木工業, 山陽防腐 KK ———— 姫路城 ———— 東 京

3:00- <3:00> 3:00- <2:00> 7:00-

8. (DIV. 3) (機械化) 林道網と、森林作業の機械化コース (5泊6日)

(三瓶谷, 鳥羽泊) (木曽湯輪泊) (木曽谷, 諏訪泊)

京 都 ———— 林道網と機械化集材作業, 諸戸林産(志摩) ———— 志摩, 中津川 ———— ヒノキ林と伐木造材・

4:00- <3:30> 2:00- 8:00- 2:00- <4:00>4:00-

(軽井沢, 水上泊)

架空線集材作業, 王滝国有林, 赤沢備林 ———— カラマツ林とトラック集材・造林作業, 浅間山吾妻山国有林

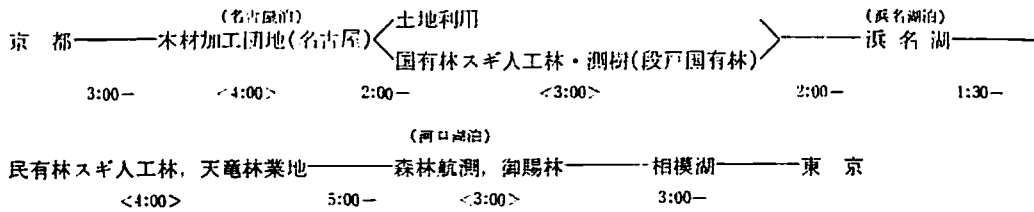
3:00- <3:00> 2:00-

(沼田, 春日光泊)

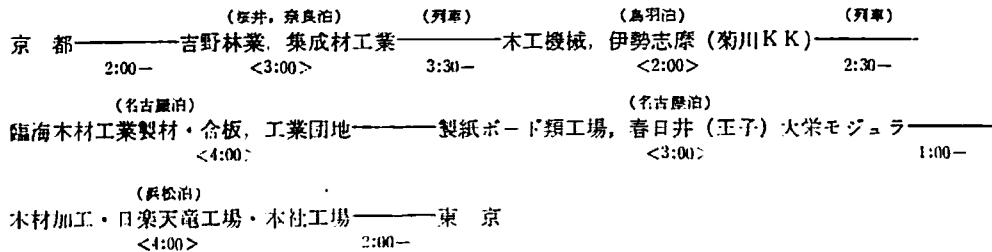
——— 沼田機械化センター各種林業機械作業 ——— 日 光 ——— 東 京

1:30- 4:00- 2:30- 7:00-

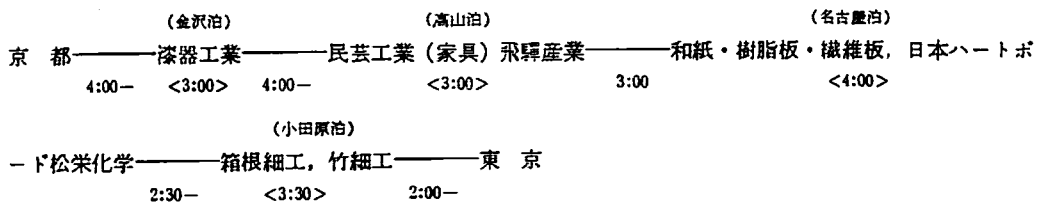
9. (DIV. 4) (経営) 林業経営経済, 土地利用, リモセンコース (3泊4日 or 4泊5日)



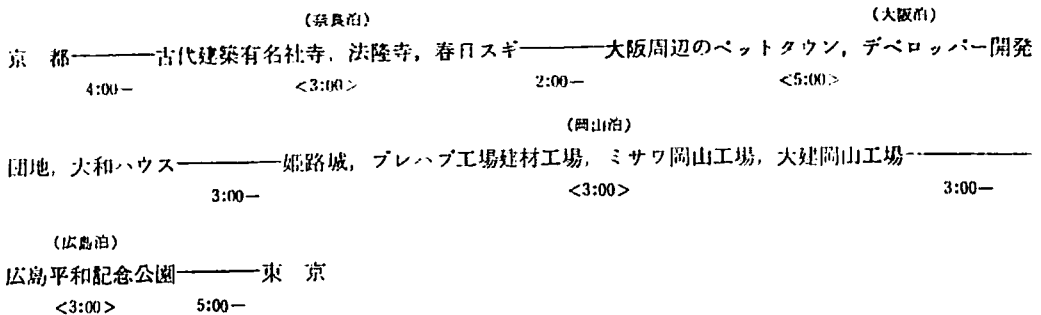
10. (DIV. 5) (林産) 日本の木材工業の現状コース (5泊6日)



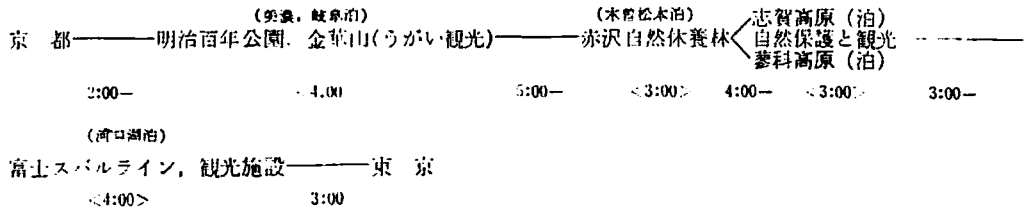
11. (DIV. 5) (林産) 伝統的木材利用コース (4泊5日)



12. (DIV. 5) (林産) 木造建築コース (4泊5日)



13. (DIV.6) (レクリエーションコース(4泊5日))



14. ワンデーツアー

(1) 日本の伝統的木材利用コース

京 都———奈良古代木造建築、春日スギ———法隆寺

(2) 京都市内古代木造建築、北山スギ

(3) 平和記念コース(1泊2日)

京 都———広島平和記念公園、マツ枯損、宮島(新幹線利用)

(4) 学園都市(教育コース)

東 京———筑波学園都市、林業試験場

I N F O R M A T I O N

★昭和52年度 IUFRO-J 総会

53.4.4(火)、11:30~13:00、農大図書館第2会議室において19名が出席し、つぎのことが協議された。

(イ) 組織体制について: 組織委員会、同事務局は昨年8月発足し、協力の設立については林団懇を中心に準備を進めている。

(ロ) 組織委員会としての現在までの協議結果は、既報の通りである。(J-News 参照)

(ハ) 各 Div のカウンターパートについては、各グループで人選し、(Div 3, 4, については、佐々木、西沢両氏、その他は林試事務局へ連絡のこと。

(ニ) 日本大会の PR ためチラシ、旗、バッヂ等を製作配布する。

(ホ) J として最終基金額1人10,000円を確保し、その徴集方法は事務局に任せるが前納しても差支えない。

(ヘ) 業務分担については事務局で計画し、各機関に割当の方が対応しやすいと思われるので、業務があれど注交してほしいこと。

★協力会設立準備委員会(第1回、林団懇)

53.3.17(金)10:30~12:30 永田町ビル会議室において第1回協力会設立準備会を開催し、協力会設立の必要

性とその業務、募金額とその方法、PR 活動と協力の仕方等について協議し、さらに第2回集りを4月上旬に実施することとした。

★協力会設立準備委員会(第2回、林団懇)

53.4.14(金)13:30~15:00 永田町ビル会議室において開催し、協力会の組織、業務、受入機関、募金、構成メンバーと範囲(拡大)および準備委員会→設立委員会(発起人)→協力会設立の段取りとタイムスケジュールについて協議した。

★IUFRO-林試事務局会議

52.4.13 林試事務局で当面の IUFRO 問題の処理事項について協議した。

(イ) PR のためのチラシ、旗の作成配布について、

(ロ) カウンターパート選出、

(ハ) EXC. コースについての第2次案の作成、

(ニ) 事務局会議を継続的に開催するための措置、

(ホ) 事務局の非常勤委員の検討、(後日任命)

★IUFRO-林試委員会

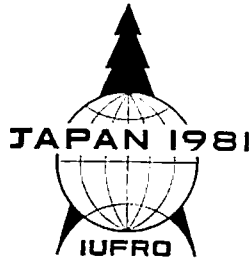
53.4.24 林試委員会を開いて、(1)日本大会の開催運営について常時考えている組織が必要であることから、事務局を強化し2~3の兼務者(海外研究協力室)を補充する。(2)日本大会を一般に PR するためにいくつかの(チラシ、旗)方法を考え実行中である。(3)具体的に進

IUFRO-日本大会のシンボルマーク

日本大会のシンボルマークについては、関係者で広く協議検討した結果、既成の IUFRO マークを主体として作成することとしました。

IUFRO マークは News 等ですでになじみの多いところで、またこのマークの使用については、同理事の申し合せにより、IUFRO 関係に関する限り自由に利用して差支えないことになっているので、林試飯塚美代子さんを煩し、このマークをいろいろとアレンジしていただき、これを関係者で協議の結果下図が決定しました。

今後広く各方面で利用されることを希望します。



めて差支えない事項は、逐次仕事を進めること、たとえば、EXC コース、そこで第1次案を検討して、12~15 コースとポイントの重複性、経費、コーステーマ、交通の便などを調整し、第2次案を5月中に成案すること。

★第3回 IUFRO 理事会の通知

10月7日~13日(7日間) イラン・テヘラン市において第3回理事会が開かれることになり、佐藤、松井両氏に出席要請の通知があった。

★林試事務局会議

53. 6. 2 林試事務局会議を開いて、次のことを協議した。

(イ) 日本大会の開催の時期について、植樹祭と合せて開催してはどうかの意見のあること。

(ロ) 日本大会の概要を IUFRO-News を利用してアナウンスメントするための原稿を8月末日をめどに準備すること。

(ハ) シンボルテーマ、EXC コースについて討議。

(ニ) 米園林学会誌へ日本の林業技術の現状を紹介して、日本大会参加の手がかりとするための原稿の分担と執筆内容について協議(米誌より依頼)。

(ホ) 今後の作業予定について協議。

★林試事務局会議

53. 6. 22 林試事務局会議を開いて、(イ) 日本側のシンボルテーマ(案)を選定した(第1頁参照)。(ロ) EXC コースならびに日本大会の春と秋の場合のメリット、デメリットについて討議した。

★林試事務局会議

53. 7. 19 林試事務局会議を開いて、EXC コースの見直し、今後の段取りについて協議を行った。

★日本大会協力会設立準備委員会

53. 7. 21 農林年金会館において、林野庁長官、場長をはじめ柴田栄氏等林業関係団体の各長が集り、IUFRO の機能と組織、大会の所要資金今後のスケジュール等について報告説明を行ない、つづいて運営組織、募金方法について協議、ならびに趣意書の内容等について意見交換が行われ、8月早々に発起人会を開くことが申し合せられた。

★日本大会協力会設立発起人会

53. 8. 8 永田町ビル、グリーン倶楽部において設立発起人会を開いて発起人のメンバー募金財団等について協議したが、組織の主体(官か民か)主催機関(者)等について、新たな意見が提案され、さらに検討を加えることになった。

★林試事務局会議

53. 8. 15 林試事務局会議を開いて、次のことについて話し合った。

(イ) 日本協力会の設立準備状況と今後の見とおしについて説明。

(ロ) EXC コースのリーダー、コーディネーター等の設置運営について協議。

(ハ) 名古屋大斉藤教授より第16回国際昆虫学会議の準備、運営状況について話し合い。

★第3回 IUFRO 理事会の変更

9:14. リーゼ氏より、理事会が10月8日~13日、ミュンヘンに変更になった電報連絡があった。

IUFRO-J NEWS No. 5

昭和53年9月

編集発行 林業試験場調査部

TEL 02987-3-3211